

平和を望む丘



Concept

南北に眺める海と街並みの風景を、きりとりように壁を配置する。壁と壁の間のベンチは訪れた人々の休憩スペースとなる。

屋根から見える空と光を沖縄の“平和”を表した。座ると場所によって見え方が違う風景、時間によって変化していく光と影。

その場所は、沖縄の歴史の経過を物語るかのような空間になる。

心地良い風に吹かれながら、どこか遠くに思いをはせる。

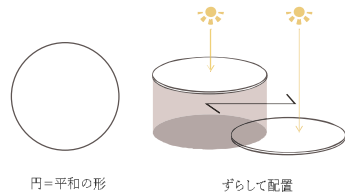
コンセプトは

“平和”を感じ“平和”と向き合える展望台

Diagram

〈2つの白い円〉

円は途切れる事なく続く平和の象徴
それぞれ平和を感じ、思う場のカタチとして表現する。
円をずらして配置することで明暗が生まれる
それぞれの場所で平和を思う



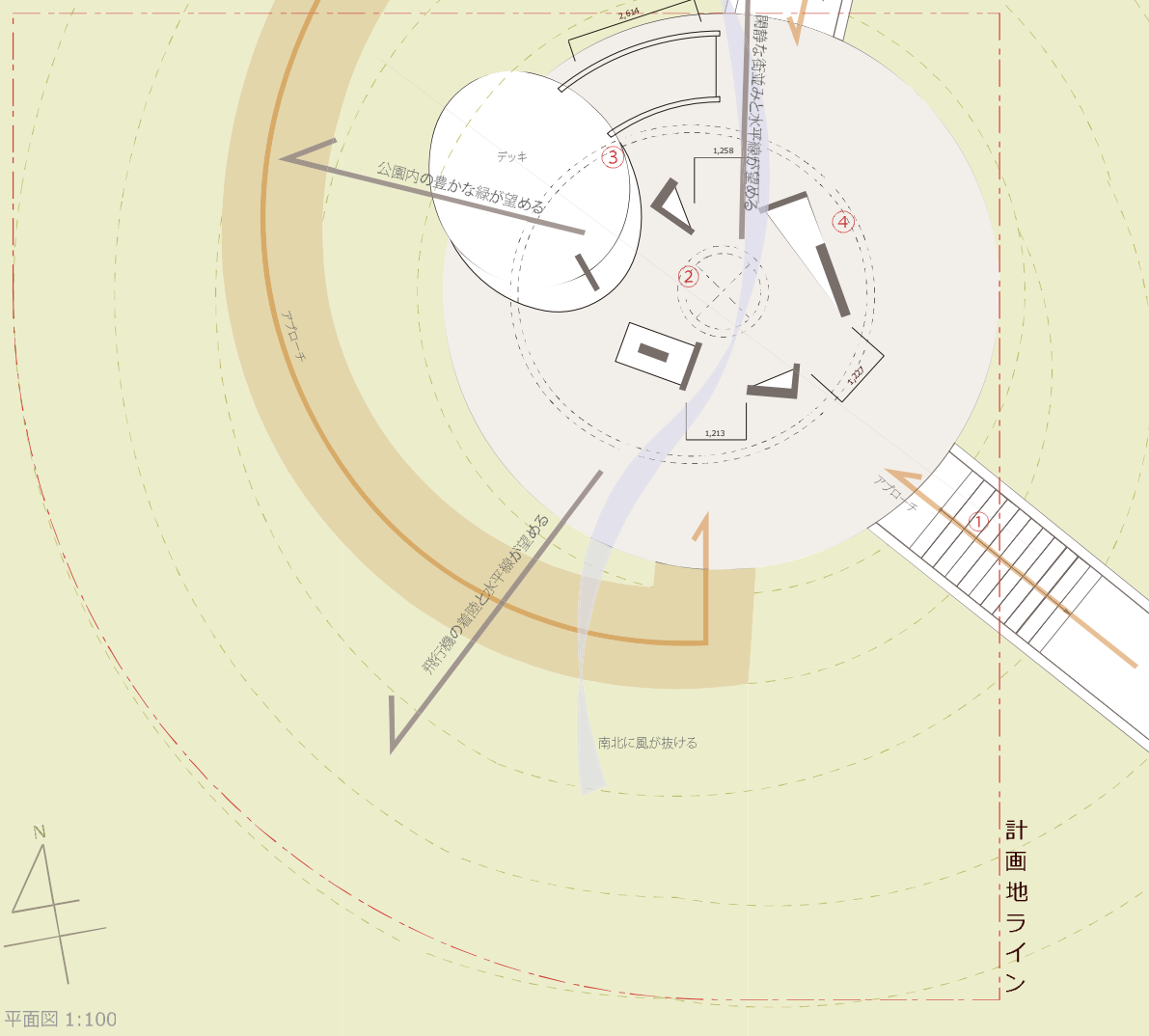
Program

日々の暮らしの中でつい忘れてしまう「平和」。

ここは「平和と戦争」・「人工と自然」・「共有と専有」・「過去と現在」が緩やかにつながる建築。海軍壕や祈念碑とのコントラストが今広がる

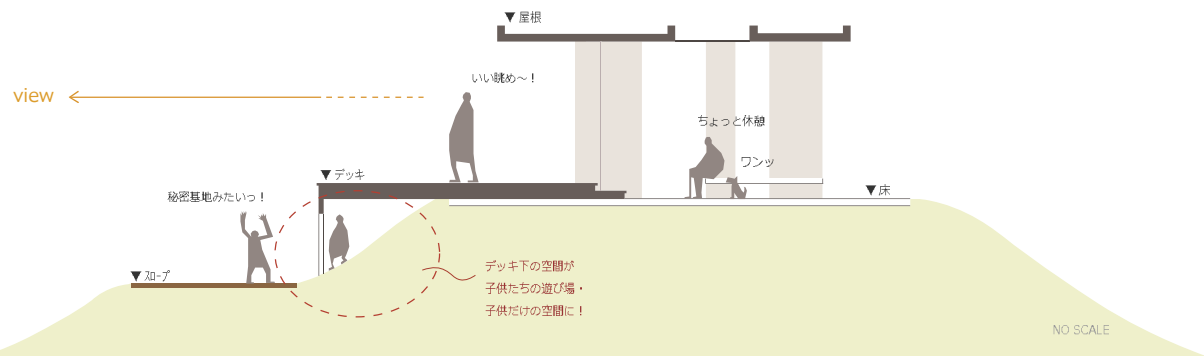


計画地ライン



平面図 1:100

■平面図(上)/断面(下)



①アプローチ



階段やスロープから高台に上がってくると、この建築が訪れる人を迎え入れる。その場の空気感を邪魔しない建築を目指し、強い日差しを遮りつつ、抜けのある外観にした。

②壁



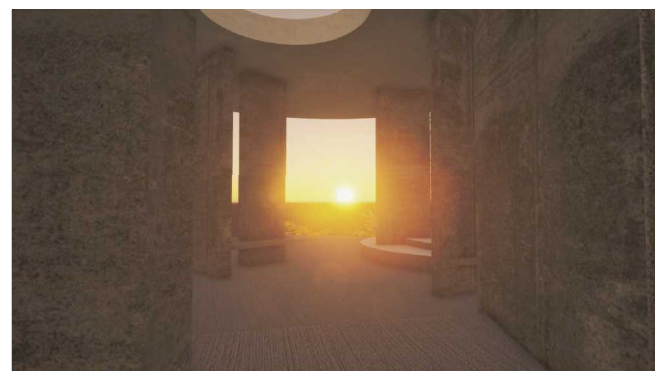
屋根を支える壁は高台に差し込む日差しを程よく遮るそして周囲に広がる景色をトリミングしつつ、訪れた人の居場所をつくる。皆で集まったり、時には自分だけの場所を見つける。そこから外を見ると、トリミングされた街や海が鮮明に広がり、「平和」を感じさせてくれる。

③デッキ



壁面空間からデッキへ足を運ぶとトリミングされた景色の全貌を見ることができる。壁で仕切られていない開放性と空が広がっている気持ちよさが平和だからこそ生まれる「自由」を感じさせてくれる。

④風景



ベンチに腰を下ろすと涼しい風が吹き抜ける。外に目をやると戦争中、当時の人が見た風景が見える現在の街や海と合わせながら平和を感じ、歴史を思う。